



大和中学校 新校舎が完成

「ゆとり」のある空間、地域環境にも配慮



昨年12月19日(金)、2層吹抜けで開放的な空間の生徒ホールで行われた大和中学校新校舎竣工式の模様



来賓の方など約80人が出席して行われた竣工式であいさつをする中田市長



生徒を代表して生徒会長の廣澤慎一郎さんが「今までの伝統を大切にしながら新たな伝統を作り上げ、より勉学に励んでいきたい。」と、お礼の言葉を述べました。

改築整備が急務になっていた大和中学校新校舎が完成

昨年度から改築工事を行っていた大和中学校新校舎が完成し、昨年12月19日(金)、同校の生徒ホールで竣工式が行われました。

旧校舎は昭和40年に建築されたもので、近年、施設・設備の老朽化が激しく、平成13年に実施した建物耐力度調査で「構造上危険な校舎」との判定を受け、改築整備が急務になっていました。

新校舎は旧校舎南側に建てられ、鉄筋コンクリート3階建・延床面積4,282.29㎡で、建設費は約9億6,700万円。

昨年末には、机や椅子などの備品類の移転が終了し、本年1月8日(木)から第三学期授業が開始されています。

新校舎で新学期スタート

1月8日(木)、同校体育館で行われた第3学期の始業式では、小林校長が「新年の

- ・生徒ホールは、南に面した2層吹抜けのスペースで、開放的な空間により、生徒の多目的な活動に対応します。
- ・給食の運搬を主目的とする11人乗りエレベーターを設置することで、バリアフリー新法に対応しています。
- ・また、多目的トイレを各階に配置して、すべての生徒が円滑に生活できるように、利便性と安全性に配慮しています。
- ・環境的配慮として、玄関に

新学期を新校舎で迎えることができました。今までの伝統を引き継ぎ、一人ひとりが自覚を持って頑張ってください。」と挨拶。その後、全生徒による「書き初め大会」が行われました。生徒からは「勉強や部活動に頑張る、たのしい学校生活を送りたい。」などの声が聴かれました。

新校舎の主な設備

普通教室6室、特別支援学級2室、校長室、職員室、理科室2室、技術室、家庭科室、図書室、保健室、美術室、音楽室、コンピュータ室、会議室、進路指導室、生徒ホール、生徒会室、資料室、相談室、昇降用エレベーター、太陽光発電装置(エコスクール認定) ほか

新校舎の特徴

- ・教育施設として太陽光発電システムを導入することで省エネルギー化を図ると同時に、校舎を通じて、地球環境問題や新エネルギーシステムについて学習する場を提供します。
- ・は地場産業の石材、教室や廊下には木材を多用しており、地域の風土や温かみと潤いを身近に体験できる豊かな教育環境を創出しています。
- ・その特徴的な校門周りは、現在、地元で地場産業の石材を営む卒業生の有志のみなさんが、母校に対する想いを具体化したもので、表面の荒々しい原石素材をあえて使用し、生徒の未来への可能性を雄大に表現しています。



新学期を新校舎で迎えた大和中学校生徒のみなさんは、始業式で心も新たに「書き初め大会」に挑戦しました。